

みなさまへ

ラボ・ライブラリーSK31 発刊記念教育講演会

子どもの心の奥底を見つめる絵本の巨人  
**モーリス・センダックの世界**  
レオニ、スタイグ、アメリカ絵本の魅力

主催：ラボ教育センター

この冬に登場する新しいラボ・ライブラリーは、20世紀後半のアメリカを代表する3名の絵本作家、モーリス・センダック、レオ・レオニ、ウィリアム・スタイグによる6編の絵本に題材をもとめて制作されます。この刊行を記念して、長年にわたり児童文学の翻訳・研究に携わられ、センダック作品の訳者としても著名な神宮輝夫先生をお招きして、センダック作品とその世界についてお話していただくことになりました。「子どもたちが直面するおとなたちや社会からのさまざまな圧迫、子ども自身ではのりこえられない不安に、常に正面からむきあってきたセンダック作品は、子どもたちを取り巻く状況がきびしさを増している今、新たな意味をもちはじめている」と先生はおっしゃいます。

講演では、レオニやスタイグの作品にもふれていただき、センダック同様、世界の子どもたちに愛されてきた彼らの絵本の魅力についてお話しいたします。

日時：2007年11月6日（火）開場 9：45 開演 10：00 終演 12：00（予定）

会場：住友ホール 新宿住友ビルB1「新宿」駅「西口」徒歩8分

参加費：500円（当日受付にてお支払いください）

申し込み方法：下記申込書に必要事項を記入のうえ、ファックスにてお申し込みください。

定員：300名（定員になり次第締め切り）

講師プロフィール



神宮 輝夫（じんぐうてるお）——青山学院大学名誉教授・英米文学。1932年、群馬県生まれ。早稲田大学英文科卒業，同大学院修了。在学中から早大童話会に参加し，長く英米児童文学の研究・翻訳の第一人者として活躍。センダックをはじめとして，アーサー・ランサム，リチャード・アダムズ（『ウォーターシップ・ダウンのうさぎたち』），ジョン・ロウ・タウンゼンド（『アーノルドのはげしい夏』），ウィリアム・メイン，ロイド・アリグザンダーなど，戦後の代表的な作品を数多く日本の読者に紹介した功績は大きい。また，自身による創作評論等も枚挙にいとまがない。1964年『世界児童文学案内』で日本児童文学者協会賞，1966年，サンケイ児童出版文化賞，『アーサー・ランサム全集』で68年，児童福祉文学賞受賞。青山学院大学教授，白百合女子大学教授を歴任。ラボ・ライブラリーでは，SK22『トム・ティット・トット』の日本語を担当された。（財）ラボ国際交流センター評議員。

教育講演会参加申込書

以下ご記入のうえ，切り取らず，このままファックスしてください。03-5324-3423。電子メールの場合は，上記必要事項を記入の上，[tokyo@labo-global.co.jp](mailto:tokyo@labo-global.co.jp)へ，タイトルを「講演会申込」として送信ください。（ラボ会員ご家庭はパーティ名とお名前のみご記入ください）

（ 地区 パーティ）参加者氏名：

お電話：

ご住所：

この講演会を何でお知りになりましたか？

（新聞・雑誌・DM・ホームページ・その他： )